



つばめ農園おひさま便り

36

安溪貴子・安溪遊地

土に生きる

山々の紅葉の色が日毎に鮮かになってきました。山裾を歩くと、ツリガネニンジンに似たサイヨウシャジンや、リンドウ、野生化したラッキョウの花が青紫で映えています。

つばめ農園もイセヒカリを無事収穫、新米の販売を始めています。収量は少ないのですが、今年は色彩選別にかけても、クズ米がほとんど出ず、美味しいお米ができました。一月中旬の農園では、サツマイモ基腐病をまぬがれた紅はるかの収穫を終えて、大豆と蕎麦の収穫が間近です。

まる三年になったこの連載は、アフリカや日本の話題を渡り歩きながら、ほぼコロナ禍の中で進行了りました。発行人の四方さんが、いろいろな市民の集会に出向いて、そこでの販売を大きな収入源としてきたこの雑誌『むすぶ』が、集会というものがほぼできなくなつた中で存続していることは、ほとんど奇跡です。応援を続けたいと思います。

コロナ以前と変わらずにつばめ農園のお米や大豆を食べてくださるみなさんには、ぜひ一度農園をお訪ねくださるよう、お招きいたします。都会で消費者として暮ら

していても、ちよつとした農業体験が、将来少しずつでも自分で食べ物を育てるきっかけになるかもしれません。その小さな一歩を歩みだすことが、日本のように戦争になれば真っ先に飢えるだろうといわれている国では大切なことと思われまふ。また、お近くの方も、気軽にお訪ねください。先日も宮農ソーラーの取材に来てくれた学生たちには、薪ストーブを焚く前に、体があったまるように、まず薪割りをしてもらいました。ダイズの収穫に来てくれる八人の学生たちとは、のべ五日間の実習のしめくりのごほうびとして、国産小麦の薪焼きピザを自分たちで作って食べる予定です。

インドネシアの女性グループの訪問

一〇月のはじめ、山口市立山口情報芸術センター（ワイカム）のインドネシア人学芸員のバルトさんからメールが届きました。#バクダパンという、インドネシアの女性アーティストグループと「#食と倫理」についてのプロジェクトを準備中で、彼らを山口に招くときに、阿東つばめ農園を訪問したいという要件でした。

同時に送られてきたプレゼンには、バク



インドネシアからのお客様を迎えて
(2022年10月)

タパンの紹介として「食べるのが大好きな人たちの集まりです！食卓に並ぶものをきっかけに、社会生態学的課題について語り合い、議論し、批評し、食を通じてあらゆることを考えようとするグループです」とありました。食と倫理とアートという思いがけない組み合わせ。面白そうなので訪問をお引き受けしました。ところが、あとの方を読んだら、彼女らの設問は、日本の植民地政策と農業政策の過去と現在に深く切り込むものでした。

a 日本統治時代の日本の食のプロパガンダがインドネシアの食糧政策に与えた影

響は何か？

b 日本統治時代の政治的文脈は、東南アジア、特にインドネシアの食糧政策にどのような影響を与えたか？

c 国内政策に対するプロバガンダは、日本社会とどのように関連していたのか？(戦時中の食糧に関する集合的記憶とそれが今日の状況にどのような影響を与えたかを調査し理解するために)

d 私たちが収集したこれらのアーカイブをどのように読み解き、現在の状況、特に現在のグローバルなフード・ポリティクス

の状況に文脈づけることができるのか？山口に住む日本人のスタッフや友人も加わって、一〇人ほど来られましたので、新たな植民地になった台湾で日本稲を育てようとする努力の話を、#蓬萊米をめぐる末永仁^{めくむ} 技手と磯永吉博士の足取りを中心に

お話ししました。戦後、インドのパンジャブ地方の緑化に取り組んだ杉山龍丸さんの働きかけで、蓬萊米の種子二〇トンを中華民国政府がインドに送って、そこでも日本稲の栽培に成功し、台湾米の八割以上は現在も蓬萊米だという、植民地とその遺産の光と影をお話ししました。

グローバル企業による在来の農業への圧迫にいかに向かうべきか、という質問

が次に出ました。この連載でもたびたび取り上げているように、ローカルフードを守りたい「種子を守る会」の全国や山口での取り組み、アフリカでの「緑の革命」の現状など、お話ししたいこともたくさんありましたが、座学では長くなりそうなので「土に触れれば、ここに希望があるという答えがわかるはずです」と、空き家を改装した「おひさま交流館」を出て、すぐ横の放棄水田跡で、特大のサツマイモを掘ってもらいました。

私たちが去年から参加している、総合地球環境学研究所のサンゴの島の水循環プロジェクトのフィールドは、奄美沖繩とベラウ共和国、そして、インドネシアのワカトビ諸島となっています。地球研は、地元の実践者との協同を柱とする「超学際研究」を重視していますので、今後の交流が楽しみです。

(つづく)

(あんけいたかこ・あんけいゆうじ)

QRコードにスマホをかざすと、各サイトが見られます。文中の#マークはパソコン検索用です。

